

2025年3月期第2四半期 決算説明会・主な質疑応答

決算説明会での主な質疑応答を掲載しています。

開催日時：2024年11月7日（木）

<ご留意事項>

「主な質疑応答」は、説明会での質疑をそのまま書き起こしたのではなく、ご参加いただけなかった方々向けに、当社の判断で簡潔にまとめたものです。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

映像

Q：年末の商戦期を含めた下期の見通しは？

A：Z9の先進技術を下位モデルであるZ8・Zf・Z6III、本日公表した新製品Z50IIに展開し、年末商戦に向けて競争力のある中核機のラインアップが揃ってきています。但し、ラインアップの裾野が広がったことで、下期の平均販売単価は上期に比べて下がる見込みです。また、下期の研究開発費や販売経費などの経費は、上期より多くなる計画です。

なお市況については、中国のカメラ市場は好調が続いてきましたが、足元は成長にやや陰りがみられます。

精機

Q：来期のFPD露光装置の見通しを教えてください。

A：テレビ向けパネル市場は不透明な状況が続いていますが、IT関連やスマートフォンなど高精細向けパネル需要は強く、6世代・8世代向け高精細・高生産性の付加価値の高い装置の引合いが強い状況です。現時点では、来期の販売台数は30台を超えるとみています。

Q：来期のArF液浸とArFドライ露光装置の販売見通しを教えてください。

A：当社はこれまで主要顧客以外の顧客への拡販を努めてきましたが、今期は、半導体市況の回復遅延の影響を受け、一部装置の販売が来期繰り延べとなりました。今期末には本格的に市況は回復すると想定をしていましたが、中国を含むアジアの顧客は投資を抑制している状況です。来期については、市況や顧客の投資動向の不透明さもあり、現時点では予測が難しい状況です。

Q：中国向けの半導体製造装置市場全体は、今年は販売が伸び、来年は販売減少する見通しだと聞いているが、中国向けの販売を下方修正した理由は？

A：当社の中国向け半導体露光装置は、現状、顧客と伴走し拡販に努めている状況です。そのため、下方修正の要因は、市況の影響というより、個別の顧客の投資動向によるものです。

Q：今期のサービス収入の見通しを教えてください

A：足元では精機事業のサービス収入は大半が主要顧客からのものであり、主要顧客の稼働状況や来期以降の計画によっては、当社の精機事業全体が影響を受ける可能性があります。

コンポーネント

Q：EUV 関連コンポーネントビジネスの来期以降の見通しと回復の時期をどうみているのか？

A：当社の EUV 関連コンポーネントを利用するマスク検査装置は、マスクショップとウェハーフアブでの需要があります。マスクショップでは、高精細化に対応するマスク検査装置の引合いがあり、Hi-NA 向けの EUV 関連コンポーネントの販売は計画通りに進むとみています。

一方、ウェハーフアブでの需要は不透明感が出ています。EUV 関連コンポーネントビジネス回復の時期はウェハーフアブでの需要回復次第とみており、今後の半導体デバイスメーカーの投資動向を注視しています。

デジタルマニュファクチャリング

Q：上期実績は若干下振れているなか、年間見通しは据え置いているが、下期に業績が回復する蓋然性を説明してほしい。

A：SLM 社を中心としたデジタルマニュファクチャリング事業は、順調に売上拡大と赤字幅縮小が続いていますが、シーズナリティもあり、下期の方が受注・売上ともに増える傾向があります。上期売上と Q2 末の受注残を合わせて今期通期売上計画の 70%超に達しており、計画達成の蓋然性は高まっています。特に、単価が高く大型部品が造形できる金属 3D プリンター NXG の受注が好調であり、防衛、航空宇宙領域向けに拡販する戦略が奏効しています。また自動車系などの受注も徐々に獲得できており、今後の販売拡大が期待できるとみています。

全社

Q： 中期経営計画最終年度である来期営業利益目標 700 億円の達成の蓋然性について、教えてください。

A： 今期はビジネスサイクルの底であり営業利益予想を 350 億円としていましたが、今回 220 億円に引き下げました。来期の計画策定はこれからですが、中期経営計画の目標値 700 億円達成のハードルは上がったと認識しています。一方で、半導体市況の回復次第ではあるものの精機事業とコンポーネント事業は今期比改善する可能性があり、加えて SLM 社を中心としたデジタルマニュファクチャリング事業の赤字幅も引き続き縮小する見込みです。また今期計上した RED 社の買収関連費用、本社移転費用、旧産業機器事業の構造改革費用など約 100 億円の一時費用が来期は剥落する効果も見込めます。今後、研究開発費の効率的な活用などの自助努力施策を織り込み、来期の計画を策定する予定です。

Q： EssilorLuxottica 社がニコン株式の保有を増やしているが、どのような背景があり、どういったコミュニケーションをしているのか？

A： 11 月 1 日に先方が出した大量保有報告によれば、8.45%の当社株式を保有していると認識しており、投資理由は長期の純投資であることを確認しております。本件に限らず、個別の株主・投資家との対話の内容・取引については回答を控えています。

以上